

| | | |
|------------------------------|--|----------------------------|
| 6-1 | コロナ禍、高卒社員はなぜ離職する？ | 所属 埼玉県立八潮南高等学校 氏名 豊岡 寛行 |
| 資料名 | NHK ニュース「高卒社員“すでに離職”企業側回答 約3割 就職支援会社が調査」 (2021年6月24日) https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210624/k10013100881000.html | |
| 資料内容 | ○ 2021年4月入社の高卒新入社員を受け入れた会社のうち、およそ3割が「離職者がいる」と回答、新型コロナウイルスによる影響でミスマッチが起きている可能性あるとの分析 ○ 補足情報として、2020年度は就職活動日程が後ろ倒しされたものの、休校の影響などで、例年以上に満足に企業調べや見学が行えていない(ZOOM会社見学など)実情がある | |
| 教科書等との関連 | 中学校 公民的分野 職業の意義と役割 雇用と労働条件 高等学校 公民科 雇用と労働問題 キャリア教育 | |
| キーワード | コロナ 市場の失敗 職業の意義 キャリア教育 労働 | |
| ねらい | ◆「なぜ高卒の多くがやめてしまうのか」という疑問から、労働市場の限界に気づかせ、賃金や労働時間以外の様々な労働条件にも意識を向けるとともに、自らの職業観を形成させる。 | |
| 活用場面 あるいは 授業プラン の概略 | <p>発問 「賃金や労働時間以外に、就職先に臨むことは何でしょうか。その中で一番大切にしたいことは何ですか。それらを知るためには、どうすればよいでしょうか。」 「どうしたら、企業と高卒労働者の間のミスマッチを減らせるでしょうか。」</p> <p>解説 たとえば、「やりたい仕事かどうか」「働き甲斐」「職場の人間関係」「福利厚生」といったところはどうでしょう。それらの情報は、求人票からは分かりませんし、書かれていても断片的な文字でしか判別できません。 高卒の労働市場においては、「情報の非対称性」の問題が特に顕著です。買い手である企業は、高校生の情報を面接などわずかな機会を知るしかない。しかしそれ以上に、売り手である高校生は、企業の情報を知る機会が求人票や見学などに限られるだけでなく、自分の向き不向きや生きがい、さらには働くこと自体についての意識が未形成なことも多いです。企業と高校生の情報の非対称性が、就職のミスマッチを生みやすい状況を生んでいることが考えられます。これは「労働市場の失敗」と言えるでしょう。 ミスマッチを減らすには、情報の非対称性が最初からある市場だという前提に立ち、その差を埋めることが必要です。キャリア教育を通じて働くことの意義ややり甲斐などを形成し、また直接企業の現場で仕事を体験したり、先輩社員から直接話を聞かせてもらったりする必要があります。さらに、複数の企業を見学し、それらを比較することが最も有効です。高校の進路室は、こうした活動をフォローし、高校生の勤労の権利を保障する機能も持っているのです。 残念ながら、2021年新入社の高卒の人たちは、<u>コロナ禍でそのようなキャリア学習や進路活動が満足にできませんでした</u>。そのことが、高い離職率につながっている可能性があります。</p> | |
| 備考 | ①アンケートは、調査母数が多くないので、全体を表しているかは注意が必要。 ②「新入社員の3割が離職」ではないことに注意。「企業の3割が、離職者がいると回答」なので、場合によっては離職者がもっと多い可能性もある。 ③以下も参考になる。しかし、離職率なので単純比較はできない点に注意が必要。 https://www.mhlw.go.jp/content/11650000/000689573.pdf | |